

牛久市教育委員会 9 月定例会会議録

1. 日 時 令和元年 9 月 24 日（火）午後 1 時 30 分
2. 場 所 分庁舎 2 階 第 1 会議室
3. 出席委員 染谷 郁夫・石井 美知夫・後藤 雅宣・芦田 亜里香・五十嵐 登喜子
4. 委員以外  
の出席者 次長兼教育企画課長 吉田 茂男  

学校教育課	課長	川真田 英行
指導課	課長	豊嶋 正臣
文化芸術課	課長	手賀 幸雄
生涯学習課	課長	中野 祐則
スポーツ推進課	課長	齋藤 勇
国体推進課	課長	横田 武史
中央図書館	館長	関 達彦
教育企画課	課長補佐	山口 功
学校教育課	課長補佐	戸塚 美幸
学校教育課	課長補佐	森田 明
指導課	課長補佐	山口 明
文化芸術課	課長補佐	大野 恵子
生涯学習課	課長補佐	山越 義弘
スポーツ推進課	課長補佐	塚本 浩
5. 欠席者 教育部長 川井 聡  
次長 飯野 喜行  

学校教育課	学校建設対策監	佐藤 孝司
学校教育課	課長補佐	高野 裕行
スポーツ推進課	課長補佐	津脇 正晴
国体推進課	課長補佐	高橋 頼輝
6. 会議録署名人 石井 美知夫
7. 議事事項 議案第 10 号 ひたち野うしく小学校プール施設等の開放に関する規則の一部  
を改正する規則について  
議案第 11 号 牛久市部活動の運営方針の策定について  
議案第 12 号 牛久市スクールバス運営委員会規程について  
議案第 13 号 牛久市おくのキャンパスバスの運行に関する訓令について  
議案第 14 号 牛久市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則  
の一部を改正する規則について  
議案第 15 号 令和 2 年度牛久市立学校小規模特認校の募集に関する要領につ  
いて

- 報告第13号 令和元年度牛久市地域学校協働活動推進員の委嘱について
- 報告第14号 牛久市立ひたち野うしく中学校制服・体操服について
- 報告第15号 牛久市公園条例施行規則の一部を改正する規則について
- 報告第16号 牛久運動公園野球場広告掲載に関する告示の一部を改正する告示について
- 報告第17号 牛久市立幼稚園授業料及び入園料徴収条例を廃止する条例について
- 報告第18号 牛久市学校給食費条例施行規則の一部を改正する規則について

## 8. その他

次長兼教育企画課長	出席委員が、定数に達したため定例会の成立を宣言。
教育長	<p>こんにちは。</p> <p>きょうは、後藤教育委員の3期12年にわたる最後の会議でもありますので、最後に後藤先生からご挨拶をいただければと思っています。</p> <p>学校は無事運動会もすみまして、間もなく1学期が終わるという状況になってくると思いますが、1人、交通事故に遭った子がいますが、命に別状がなく良かったです、ヘルメットをかぶっていたので助かったという報告がありました。歩いているところに車が衝突したんですが。そういった意味で、保護者の方が、ヘルメットがあつて本当に助かったということで、お電話をいただきご挨拶してくれたということがありました。</p>
教育長	<p>開会を宣言する。</p> <p>会議録署名人 石井美知夫委員を指名する。</p>
教育長	初めに、議案第10号、ひたち野うしく小学校プール施設等の開放に関する規則の一部を改正する規則について、事務局より説明をお願いします。
スポーツ推進課長	<p>議案第10号、ひたち野うしく小学校プール施設等の開放に関する規則の一部を改正する規則について。</p> <p>牛久市教育委員会教育長に対する事務委任規則（昭和59年教委規則第4号）第2条第2号の規定に基づき、別紙のとおり、ひたち野うしく小学校プール施設等の開放</p>

	<p>に関する規則の一部の改正について、委員会の同意を求めます。</p> <p>令和元年9月24日提出。</p> <p>ひたち野うしく小学校プール施設等の開放に関する規則の一部を改正する規則につきましては、10月1日から消費税が8%から10%に引き上がることに伴いまして、業務委託料等の経費の増額が見込まれることから、負担金を2%相当額引き上げるものでございます。</p> <p>あとは、一部文言を適切な表現に改めたり、「月利用登録書」とかありますが、そちらを正しい物に改めたりしております。</p> <p>1枚めくっていただきまして、別表のとおり2%引き上げておりまして、ほぼ10円単位の金額が引き上げ額の2%に相当する金額でございます。</p> <p>この規則は10月1日、来月1日からの施行の予定です。</p> <p>以上です。</p> <p>議案第10号について質疑を受けるが質疑なし。出席者全員の賛成を得る。</p>
教育長	<p>次に、議案第11号、牛久市部活動の運営方針の策定について、事務局より説明をお願いします。</p>
指導課長	<p>議案第11号は、牛久市教育委員会教育長に対する事務委任規則第2条第1号の規定に基づき、別紙のとおり、牛久市部活動の運営方針の策定について、委員会の同意を求めるものであります。</p> <p>昨年度、牛久市運動部活動の運営方針を策定したところではございますが、平成30年12月に文化庁が文化部活動のガイドライン、そして県より茨城県部活動の運営方針が示されました。</p> <p>これに基づき、牛久市部活動の運営方針を策定し、これまで運動部活動対象であった規定を文化部を含む全ての部活動対象と明示するものであります。</p> <p>前回の、運動部活動の運営方針から、休養日を週2日設定すること、長期休業中に1週間程度の休養期間を設けること、朝練習の原則禁止等、大きな変更点はございません。変更点として挙げました別紙をごらんいただきまして、大きな変更点といたしましては、1つは(7)、中ほど1つ目、暑さ指数(WBGT)31度C以上の場合と設定しました。これは、昨年度まで運動部活動の運営方針におきましては気温35度Cと設定していましたものを、単に気温ではなくて湿度と日射、輻射などの暑さの環境と気温を総合的に勘案しました指数を設定することで、より熱中症予防に資するものと考えたものです。</p> <p>(8) 合同部活動等の推進。こちらにつきましては、中体連からも単一の学校で特定の分野の部活動を設けることができない場合、生徒の部活動の機会が損なわれることがないように、複数校の部活動の合同チームによる大会等参加が認められるように</p>

	<p>なりましたので、こちらを明記したものでございます。</p> <p>以上になります。ご審議よろしく願いいたします。</p>
教育長	<p>以上で、説明が終わりました。質問等ありましたらお願いします。</p>
石井委員	<p>運営指針の1ページの一番下の丸なんですけど、ここ、「将来においては」という書き出しになっているんですけども、その先読み進めていくと、そのまま、部活動を持続可能なものとするためにはという形で、は、は、とつながってまいりまして、この「将来においては」がどこにかかってくるのかがいまいよくわからないというところと、下から2行目に「速やかに、部活動の在り方に関し」とあるので、将来においてはというよりも、速やかにこれはやらなきゃならないものということで、どのように読めばよろしいのかなというところが、1点、ご確認を願いたいと思います。</p> <p>それから、7ページ、一番上のオの部分なんですけど、内容については、いわゆる5W1Hのことを言ってるのかと思うんですけども、要するに、誰が、何を、いつ、どこで、なぜ、どのようにということを書いてあるんですけども、これに、時間については既に別のところに書いてあったんですけども、例えばその内容についての、強度、量ですね、いわゆるHow many、How muchの部分ですが、5W2Hという考え方があるんですけど、そういったものについてはどういったことを考えていらっしゃるのかどうかというところです。</p> <p>あと、もう1点が、戻ってすみません、4ページ目です、(2)のイの部分で、この部活動運営委員会（仮称）については、学校運営協議会について、これはどんな形に絡むのかなと思ったものですから。もしお考えがあればお示してください。</p> <p>以上です。</p>
指導課長	<p>まず、最初の1ページにおきましては、若干言葉を整えさせていただければと思うんですけど、現状において既に部活動の運営が危機的状況にあると。これは、働き方改革との関連もありますが、もう既に、働き方改革がなくても部活動に関する教職員の負担が非常に大きくなっているという現状を捉えて、今のままでの運営は非常に困難になってきている。そういう意味で、将来的にも、質と子供たちの意欲を維持するための持続的なという意味で「将来的には」ということにしたんですが、これに対して、今すぐにでもできることはやって行かなくてはという意味での文章だったんですが。すみません、もう少し整えさせていただきたいと思います。</p> <p>7ページの、ご指摘のありました、誰が、何を、いつ、どこで、なぜというだけではなくて、How many、How muchの部分なんですけど、ここにつきましては確かに時間を短くしたところで運動の強度によっては子供たちへの負担ということで、その働き方改革の側面だけではなくて、子供たちに資するものと考えたときに必要な視点かと考えます。すぐにこの中に盛り込めるかといいますと、なかなか自</p>

	<p>信もないですが、検討させていただきまして、方針等で質的なもの、運動量的なものを盛り込む指針というか、指標ですか、考えられるものがあるか、少し検討させていただければと思います。</p> <p>4 ページの、部活動運営委員会等につきましては、実際に学校でいろいろな名前がついておりまして、例えば顧問会議等の呼び方で各学校実施いただいているところがございます。ここの運営につきましても、当然部活動の顧問が単独で主催して行っているものではなくて、校長の管理下におきまして部活動は行われていますので、私たちと校長会との連携といいですか、この策定につきましても校長会にはご意見をいただいていたりますので、そういったつながりを大事にしながらやっていこうとは思っているんですが。すみません、明確な答えにならなくて、申しわけございません。</p> <p>ほかにありませんか。</p> <p>先週、新人戦をやってきたのですが、牛久南中と牛久三中はもう野球部ができなくて、牛久三中と牛久南中は合体で1 チームをつくっているというような状況なんですね。そこと牛久二中が試合をするんですが、牛久二中は女子が入って1 チームという状況でして、試合した結果は牛久二中の、女子の入ったチームが勝ちました。</p> <p>このように、なかなか運動部の存続も難しいなと思います。この間も会場に行って顧問の先生方に話を聞くと、外部の指導者を入れたくないと言います。自分で指導したいんだと、そうすると、やっぱり一生懸命やるので、働き方のところと、先生方の勤務時間が長くなっても、この部は私がやりたいっていう先生の熱い熱意等があって、なかなか働き方改革と、運動部を外部に任せるという意識が現場の先生方に浸透しない状況があります。そういう中で今後よりよいやり方を探っていかなくてはならないというのが、今の現実なのかなという気がします。</p> <p>そういうことで、今回は運動部プラス文化部も入れて改定したというのがありました。熱中症も、先日の下根中のように、熱中症指数が高くて体育祭を途中で中止したというのがあるように、やはり子供の命ということを考えるとしっかりした熱中症対策というのもし盛り込んでつくるしかないかなというのを改めて感じました。</p> <p>議案第11号について出席者全員の賛成を得る。</p>
教育長	<p>次に、議案第12号、牛久市スクールバス運営委員会規程について、事務局より説明をお願いします。</p>
次長兼教育企画課長	<p>議案第12号です。牛久市スクールバス運営委員会規程の全部改正についてということで、教育委員会の同意を求めるものであります。</p> <p>事前に配付してございます議案とともに、本日お手元に追加資料ということでホチ</p>

	<p>キスどめの「教育委員会会議資料 議案第12号関係」というお手元の資料をごらんいただきながらご説明をさせていただきます。</p> <p>牛久市スクールバス運営委員会規程は、昭和61年に制定されまして、奥野小学校に遠距離通学する児童のスクールバスの運行に関する審議会の設置規定ということで運用されてきました。奥野小学校と牛久第二中学校の小規模特認校制度の導入に伴いまして、奥野小学校に通学する奥野地区の児童のために運行しているスクールバス、これまでのスクールバスのほかに、小規模特認校制度を利用して奥野小学校と第二中学校へ通学する児童生徒のために運行しているスクールバス、これを従来のスクールバスと区別するために、学校現場ではキャンパスバスと呼び方を変えて運用しておりますが、そのようなキャンパスバスの運行がされている現状について、この審議会においてきちんと審議の対象とするように明確化を図るため全部を改正するものであります。</p> <p>内容につきましての審議事項は、改正前の内容と同じでありまして、運行の適正に関すること、運行のコースや時間、それから運行の安全に関することということで、児童生徒の安全の確保の手法等ということになります。</p> <p>一方、構成員のメンバーにつきましては、これまで牛久市を代表する者や議会を代表するというような種別が入っていたんですけれども、そちらは削除させていただきまして、そのかわり柔軟な対応を必要とするために「その他教育長が必要と認める者」という条文を追加してございます。</p> <p>こういった内容の運行規程を制定したいと考えております。ご審議のほどよろしくお願いいたします。</p>
教育長	事務局の説明終わりました。質問等ありましたらお願いします。
石井委員	1点、教えていただきたいんですが、このキャンパスバスという名前の定義は、ここにあるだけで、ほかには特に定義づけはされていないのですか。
次長兼教育企画課長	<p>これまで、奥野地区のバスを通常スクールバスと言っていてまして、大きい意味ではキャンパスバスと言われるものもスクールバスなんですけど、どうしても、小学生だけ乗っているバスと、中学生も一緒に乗せているバスという意味と、それから奥野地区だけを回っているバスと、小規模特認校のために動かしているバスということで、現場で運用上の区別がどうしても必要なものですから、今までのスクールバスに対してキャンパスバスという言い方を使ってもう既に浸透しているものですから、あえて今回そういった言い方をさせていただいております。</p>
石井委員	なので、この委員会の規程の中で初めてキャンパスバスを定義づけるという形よろしいですか。ほかにはないですね。

次長兼教育企画課長	<p>この後の、議案第13号にも関係するんですが、そちらの中でキャンパスバスとはということで定義づけをさせていただきます。</p>
教育長	<p>ひとまずは、ここまでね。</p>
教育長	<p>議案第12号について出席者全員の賛成を得る。</p>
次長兼教育企画課長	<p>次に、議案第13号、牛久市おくのキャンパスバスの運行に関する訓令について、お願いします。</p> <p>議案第13号は、牛久市おくのキャンパスバスの運行に関する訓令の制定について、教育委員会の同意を求めるものであります。</p> <p>こちら、お手元に13号関係ということで資料を追加させていただきましたので、それに基づきご説明させていただきます。</p> <p>奥野の小規模特認校制度の導入と、キャンパスバスの運行経過ということで、一番下に参考として書いてございますが、28年度からの試験的運用を踏まえて、30年度からキャンパスバス、先ほど申し上げましたバスの運行をしております。</p> <p>30年度は1便、下校時が2便。令和元年度は登校時が2便、下校時は3便という運行になっております。小規模特認校制度の運用に関しましては、全国的にも余り例がない成果をいただいているところから、我々事務局といたしましても、試行錯誤の中で適宜対応してきた経緯がございます。ただ、こういった状況の中で、きちんとした運行に関することについての規程を定めたく、今回ご提案をさせていただくものでございます。</p> <p>内容としましては、対象者は小規模特認校制度を活用して通学する児童生徒。利用料は、無料です。</p> <p>運行日は、学校休業日以外ということと、あとは休業日であっても学校行事等で子供たちが集まる場合には運行するというような規程になってございます。</p> <p>利用の手続につきまして、これはこの規程を実際に運用する前から、平成元年度から運行しているんですが、利用の申し込みを保護者からいただきまして、それを承認し、あるいは途中でやめる場合にも停止ということでの依頼を出してもらうような形をしております。</p> <p>利用者等の遵守事項ということで、こういうことは運行上危険になるので守ってくださいということを述べた上で、場合によっては利用の取り消しということもありますので、みんなで守って利用しましょうねということになっております。</p> <p>それから、運行等の委託ということで、柔軟な対応を考えまして、事業者へ委託することができるということでの一文を入れてございます。</p>

教育長	<p>施行日は、令和元年１０月１日から。基本的には、来年度の入級の手続等が下半期になって入っていきますので、それにあわせて運用をさせていただきたく、１０月１日からの運用を予定してございます。</p> <p>以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
次長兼教育企画課長	<p>おくのキャンパスバスの運行のコースというのをもう一回確認すると、生涯学習センターからですね。</p> <p>今現在の運行のコースは、生涯学習センターから乗っていただく便と、運動公園の、ひたち野うしく地区の方々に運動公園から乗っていただく便があります。それは、３０年度から乗り方は一緒だったんですが、３０年度はバス１便でぐるっと回って、両方の乗り場を順番に回って乗せていきました。今年度は、どうしても利用者が多くなった関係で、１便では足りなくなったので２便を運行してそれぞれの場所から今は朝運んでいるというような形になっております。</p>
教育長	<p>生涯学習センターと、運動公園からね。今、７０名位ですか。</p>
次長兼教育企画課長	<p>５月１日現在で６７名の方が特認校ということでご利用いただいておりますが、うち、全てがもちろんバスを利用しているわけではないので、８割くらいの方は登録をしていただいて、バスを利用する体制を整えております。</p>
教育長	<p>そういう状況です。</p> <p>それでは、議案１３号について質問等ありますでしょうか。</p>
後藤委員	<p>なかなか想像がうまくできないんですけども、スクールバスの運行にかかわるようなこと、例えば議事として協議して何か決定していったりするっていう組織と考えていいんですか。</p>
次長兼教育企画課長	<p>先ほど、議案第１２号のほうの委員会が、やっぱりコースを決めたりですとか、あるいは保護者の意見を的確に反映するためにみんなで協議する場ということのほうが第１２号になろうかと思えます。１３号に関しては、今現在、実際には運用されているんですが、それを明文化することによってきちんと周知したいというような意図でございます。</p>



後藤委員	<p>これ、直接的に、例えば児童の安全にかかわるようなことも議していくような場面があったりすることを想像すると、ちょっと前後しちゃうかもしれないんですけども、委員の過半数が出席していれば議決ができてしまい、その半分以上が賛成と言えばそれで決まってしまうということになると、例えば、ちょっと前後しちゃうんですけども、12名いて4名が賛成すれば決まってしまうという。委員会ですから、通常こんなような、何ていましょう、過半数の設定の仕方ってしていくとは思いますが、臨機応変に、例えば何らかの理由で出席できない委員の意向も議決事項に何かうまく反映できるような工夫というのを設けておいたほうがいいのかなど。ただ、なかなかうまく頭の中で想像ができないので、ちょっと余計かもしれないんですけども、その決め方、何かを決めるというときに、12人中4名でオーケーとなってしまうことが、安全ということを考えたときにはちょっとどうかとは思いますが。</p>
次長兼教育企画課長	<p>先ほどの12号の案件になろうかと思いますが（「そうですね」の声あり）一応全部改正ではございますが、今まであったスクールバスの運営委員会規程が同じような仕組みで成り立っていましたので、今回も同じにはしてあります。ただ、今、後藤委員の趣旨を反映させていただきまして、9条の委任事項の中に「この規程に定めるほか、必要な事項は、教育長が定める」ということで、その中で運用の中のマニュアルといたしますか、一つの考え方として安全に関するものについてはこれにこだわらず全会一致のような努力をするというようなことを心がけて運営させていただければと思います。</p> <p>議案第13号について出席者全員の賛成を得る。</p>
教育長	<p>次に、議案第14号、牛久市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について、事務局より説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>議案第14号は、牛久市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則についてでございます。</p> <p>こちらにつきましては、10月1日から幼児教育の無償化が行われることに伴いまして、これまでありました2つの補助金、幼稚園就園奨励費補助金というのと、幼稚園の保護者負担軽減補助金、この2つが廃止になります。それに伴いまして、教育委員会から市長部局に補助執行を委任しておりましたこの2つの業務を削除しまして、子ども・子育て支援法に基づく施設給付及び制度外の私立幼稚園への助成の業務を実行願うという形でございます。</p> <p>なお、この2つの補助金については、それぞれ私立幼稚園授業料保護者負担軽減補助金の交付規則、あと牛久市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱、この2本がある</p>

<div data-bbox="148 636 236 669" data-label="Text">教育長</div> <div data-bbox="148 828 362 907" data-label="Text">次長兼教育企画課長</div>	<p data-bbox="419 159 1481 333">           んですが、本来であれば同時に今回で廃止すべきところなんです、例規審査に時間を要しておりまして、10月1日までの間で専決処分をさせていただいて、次期の委員会で報告という形での手続をさせていただきたいと思います。いずれも廃止という形の単純な処理になります。         </p> <p data-bbox="448 351 571 385">           以上です。         </p> <p data-bbox="448 495 1386 528">           議案第14号について質疑を受けるが質疑なし。出席者全員の賛成を得る。         </p> <p data-bbox="419 638 1481 716">           次に、議案第15号、令和2年度牛久市立学校小規模特認校の募集に関する要領について、事務局より説明いたします。         </p> <p data-bbox="419 828 1481 907">           議案第15号は、令和2年度牛久市立学校小規模特認校、奥野小と二中ですが、その募集に関する要領について、教育委員会の同意を求めるものであります。         </p> <p data-bbox="419 925 1481 1003">           こちらも、先ほどのお手元の資料に1枚つけさせておりますので、そちらをごらんいただきながら、説明をお聞きいただければと思います。         </p> <p data-bbox="419 1021 1481 1196">           本件は、令和2年度における小規模特認校制度を利用して就学を希望する方への定員等について、牛久市立学校小規模特認校の就学等に関する要綱第5条の小規模特認校に就学できる人数その他必要な事項は毎年教育委員会で定めるという規定に基づきまして、要領を定めようとするものでございます。         </p> <p data-bbox="419 1214 1481 1485">           小規模特認校制度の運用につきましては、これまで募集人数等の定めはしてございません。結果的に、この資料の一番下にありますとおり、28年度の試験的運用のときには12名、29年度の本格運用からは36名、キャンパスバスを運行しました30年度からは50名、キャンパスバスを増便して対応しております令和元年度からは67名ということで、毎年多くの児童生徒の方が小規模特認校制度を利用して奥野小学校及び二中に通われている現状がございます。         </p> <p data-bbox="419 1503 1481 1677">           そういった中で、利用している保護者ニーズを的確に捉えながら、奥野小学校の学校施設の収容の人数の問題も勘案して、令和2年度の小規模特認校制度の運用ではその募集に関して募集人数等をきちんと明記することが必要ではないかと考えまして、今回その要領について案を上程させていただいております。         </p> <p data-bbox="419 1695 1481 2056">           まず、募集人数ですが、先ほど申しましたとおり、学校を存続させながら一方で学校の施設のキャパもございますので、そういったものを考えますと、単学級の解消、言い換えれば複数学級を編成できるようにしたいということ。また、小規模特認校制度を利用されている保護者の方からは、今年度アンケートを行っておりますが、その魅力として少人数学級であることが大変素晴らしいことなんだということでの声を大部分の方からいただいていること。さらには、大前提として奥野地区の学区内のお子様には必ず就学の機会を確保しなければならないこと。そういったことを基本的な考え方のもとに、事務局の案としての算出の考え方を表にまとめてございます。         </p>
---	---

<p>教育長</p>	<p>ちょっと、表を確認させていただきます。1年生から9年生ということで、義務教育学校になった場合を想定してわかりやすく1から9となっておりますが、これは来年度、令和2年度の子供たちの数を想定した数字でございます。</p> <p>2年生を例にちょっと申し上げますと、現在奥野地区の学区内に通われているお子さんが29名いらっしゃいます。そこに、現在特認校で通学している方が18名いらっしゃいますので、現在2年生は47名の児童がいらっしゃいます。先ほど申し上げましたとおり、できれば2学級の、複数の学級にしながら、小規模の学級編成を維持したい場合に、学校側ともいろいろな意見交換をさせていただきまして、25名程度が望ましいのではないかという一つの結論に達してございます。1学級25名でございます。そうしますと、2学級で50名くらいの学年ができればいいのかなというのが一つありまして、その中で、地元の枠が、もし来年度途中で引越されてきたとかということになりますと必ず受け入れる枠も必要ですので、そういったものを計算しますと、計算上は募集はなかなか難しいのかなということで、今回募集の人数としてはなしというような考え方になってございます。これが募集の人数に対してです。</p> <p>また、就学の条件といたしましては、小規模特認校制度を活用している牛久市教育委員会や学校の趣旨をご理解いただきながら協力をいただける方との基本的な考え方から、この5項目、児童生徒が牛久市内に居住していること、教育目標・教育方針・教育活動を理解し協力できること、保護者の責任において児童生徒を通学させられること、スクールバス、キャンパスバスですが、利用する場合には遵守事項を守れること、そして転入学の希望をする場合には事前に教育委員会及び学校による面談や学校見学等を実施していただくことの5項目を条件とさせていただきたいと思っております。</p> <p>以上でございます。ご審議のほどよろしく願いいたします。</p> <p>ご質問、ありませんか。</p> <p>この、表をごらんになってください。こちら、キャンパスバスの運行がふえればふえるほど、校舎が足りなくなってしまうと、それもあって、ある程度枠を設けなくてはならないという現状があります。もともとは、1学級を2学級にしたほうが、人間関係が壊れた場合に組み直しができるというので、目標は2学級なのですが、2学級も40人、40人って満杯の2学級では、奥野の小規模の魅力が出ないだろうというので、1学年50人くらいにして、25人、25人くらいでやったら、子供たちも小規模のよさが出るのかなみたいな話が、今、原案なんです。そうしますと、小規模で、来る子がある程度制限しなくてはならないという状況に今なってきました、その辺のことを、どこで抑えるかというのがこの提案なんです。</p> <p>教室はもう、余りあいている教室はないんですよね。（「ないですね」の声）ない状況で、特別支援学級がまた子供たちふえると、8人で1クラスできますので、9人目になるとまた1クラスふえるというのもあって、教室が足りなくなるという状況もありまして、そういうところで枠を設けるしかないかなというのが現状なんです。</p>
------------	--

芦田委員	<p>この話をまとめるに当たって、奥野は学校運営協議会が立ち上がっていると思うんですが、そちらでは協議されたのでしょうか。</p>
次長兼教育企画課長	<p>学校運営協議会の協議の内容といたしましては、まず、申し上げますとこの件に関しての学校運営協議会の議題にはなっておりません。具体的にはなっておりません。ただ、先ほども申し上げましたとおり、１２名が３６名、３６名が５０名、５０名が６７名ということで、本当に前例がないくらい、うれしい悲鳴なんですけれども、この小規模特認校制度を活用した奥野小への、言葉が適切かどうかわかりませんが、紹介というか誘致というか、そういうことが進んでおりまして、それに対してどこかで、先ほど教育長が申しましたとおり、歯どめをかけなきゃいけない。このままふえていったらどうなるんだろうねという問題意識は、学校運営協議会の中でも出てはおります。ただ、これに対してきちんとした議論がありませんが、基本的には学校の施設の問題と、定員の管理の問題は、あくまでも教育委員会マターということ、学校運営の話ではないと思いますので、そういう意味では、ご意見は賜ることは必要かとは思いますが、最終的には教育委員会マターなのかなと解釈してございます。</p> <p>そういった意味で、今回、こんなふうに提案をさせていただいているわけですが、ただ、一応今回の人数に関しては、この表でもわかるように、昨年が１８名、一昨年在が１３名、新一年生ですので、２０名程度ということで、決して２０名で切るとかという運用ではなく、これは一つの考え方ですので、できる限り受け入れてあげたい気持ちはあるんですが、ただ施設の限界を超えとか、学校運営の、先ほど申し上げました小規模での学級経営がすばらしいという利用者側のニーズ、それをちゃんと果たせるような規模での運営をしたいなということで考えておりますので、ご理解をいただければと思います。</p>
芦田委員	<p>そういった場合、これ、定員がオーバーしてしまったりとか、殺到してしまったりとか、そういったときにはどういう基準ですか。</p>
次長兼教育企画課長	<p>定員を設けていて、じゃあ定員を設けている、今までの前例がないことを言いますと、これまでのほかの自治体でもございます。定員をオーバーした場合には、他の自治体の例でいいますと、抽せんということで、試験をやるわけにはいきませんので、抽せんということでの運用が前例としての整理としてはございます。ただ、実際には、定員をオーバーして来たという例は、茨城県内今までございませんので、実際に運用された例というのはないというのが事実でございます。</p>
五十嵐委員	<p>今、もうおくのキャンパス、募集は始まっていますか。</p>

次長兼教育企画課長	まだ、このことがきちんと決まっておりませんし、まだ9月の段階ですので、例年10月以降に募集は公表してございますので、まだ募集はしていません。
教育長	この25人というのは、奥野と二中の校長先生方から出た数なんです。このくらいがいいなという、現場のご意見なんです。
五十嵐委員	これは、今、令和2年度なんですけれども、募集以外に例えば途中から何かの都合で入ってくるということも考えられると思う。それで人数が若干多くなるとか、そういうことも想定に入っているんですか。
次長兼教育企画課長	この案をつくった段階では、今回の募集に関しての人数ですが、それは来年1年間の運用の中での一つの考え方ということで、例えば既に、1学級25人程度なので50人程度になりますが、例えば55人、地域の方も含めてなったときに、ほかから受け入れるかといいますと、そこは学校側との協議の中でのなりますけれども、基本的には今もういっぱいですということでの定員枠という考え方でおります。
五十嵐委員	今年度、今までの段階、4月から9月までの間で、何名の方が途中でおくのキャンパスのほうに入っていますか。
教育長	<p>わかりますか、4月から9月まで、途中で今奥野に動いている方何人くらいいらっしゃるか。（「ちょっと把握していない」の声あり）1人はいらっしゃいますよね。（「1人はいますけれども」「10名とか超えるような人数ではもちろんないです、数名だと思います」「5人までいくかいかないかくらいの人数、今までは」の声あり）</p> <p>これ、1年生20名、3年生5名、7年生3名だけでも、その他の学年の募集は行わないとしますか。（「そうせざるを得ない」の声あり）</p> <p>いろいろなご事情があった場合は、相談もありますね。</p>
芦田委員	そこもなんです、やっぱりおくのキャンパスの存在の意義というか、子供たちの居場所を含めてのことを考えると、ほかの学年を募集を行わないというのは、ちょっと強引というか、断定してしまうのはどうかなと思うんですが、どうでしょう。
石井委員	まず、初めにあるのが、想定外の、来ていただいたお子さんが多かったということでしょうけれども、相当物理的な制約等が考えられるがどうするか、どこで折り合い

	<p>をつけるかというのがこの話なのかなと思います。今回、いわゆるこの3学年以外で、ほぼほぼ定員がぎりぎりになってしまっている学年もあるということは事実なので、実際にどうしてもこちらの学校を希望したお子さん、あるいは保護者の方がいた場合の対応を全く受け入れないとするのか、協議の余地を残すのかというところはここである程度話しておいたほうがいいのかと思います。</p> <p>それについては、審議というか、これまでの経緯では話はあったんでしょうか。今のように、どうしても保護者なり本人の希望があった場合にはどうするかというような議論は、この案をつくる段階であったんでしょうか。</p>
次長兼教育企画課長	<p>議論の過程というか、そういった内容になるかと思いますが、今回募集に関しては小規模特認校制度を利用して奥野に来る場合の人数でございまして、あくまでもそれとは別に、制度的に指定校変更での転校ということは十分手法としてあるわけでありまして、それに関してはこの募集人数の枠には収まらないと思います。</p>
石井委員	<p>なるほど。別枠で考えるということ。</p>
次長兼教育企画課長	<p>別枠で考えるというような考え方でございます。</p>
教育長	<p>具体的にはどういうことですか。小規模特認校ではダメだけれども、指定校変更ではいいというのは。</p>
学校教育課長	<p>小規模特認校は、希望すれば誰でも行けるという、今、そのルールになっています。それ以外の、指定校変更の理由というのが、住所地の変更であったりとか、あとあんまりあっちゃいけないんですけれども、学校の不応適であったり、いじめ、不登校であったりとかそういう事情のあるお子さんの指定校変更については、指定校変更の規程がありますので、そこに該当する者はまた別じゃないかなと。</p>
教育長	<p>つまり、いじめがあつて動くのはいいけれども、奥野に行きたいっていう子供たちがいても2年生、4年生、5年生、6年生は受けつけなくなるということが、紙になっているってことでしょうか。芦田委員がおっしゃりたいのは。（「そうです」の声あり）その辺に関しては、皆さん、どうでしょう。</p>
後藤委員	<p>正確に、一般のお父さん、お母さん、おうちの方々が理解できるような情報が理解</p>

	<p>できるような形で伝わっていけば問題ないと思うんですけども。今、専門用語が飛び交いましたが、恐らく一般の方は、なかなか全体を正確に把握するって難しいような気はしましたね。正確に伝える工夫っていうのが、セット化されてこれは成立するかなって思いますね。</p>
教育長	<p>おくのキャンパスのパンフレットというのは、市内全ての子供の新生、小1から何年生まで配っていますか。（「小1から、今度中3まで」の声あり）中2までか、配るのは。（「パンフレットですね、パンフレットは基本的には」の声あり）新生から、中2までの全ての子供に配っていますよね。七千人に配っていますよね。それを見て、おくのキャンパスっていいなって、4月にみんなわっと入ってくるっていう状況なんですね。大半がそうなんですよ。よほど事情がないとね。4月に、パンフレット見ていいな、奥野へ行ってみようっていうの、今これだと1と3と7はとるけれども、2と4と5と6はとらないよっていう紙になっているので、配っておいて、配ったけれどもとらないというのが一つあるというお話なんですよ。</p>
芦田委員	<p>であれば、ちゃんと定員オーバーした場合には抽せんにするとか、そういうところまできちんと明記しておかないと、募集しておいて行けないのっていうふうに。うれしい悲鳴なんですよ。</p>
教育長	<p>紙は配りますよね。2年生、3年生、4年生も配るでしょう。配るけれども、あなたは行けないですよという状況になるということなんですよ。</p>
次長兼教育企画課長	<p>内容にもよるんですが、これまでは全ての学年に対して定員を設けていないと。全員来れる可能性がありましたので、新1年生から、幼稚園生から中2までお配りしました。今回、もし、その学年によって人数がきまれば、募集する学年にだけお配りすれば、基本的にはいいのかなと。それ以外は、参考として学校に置かせていただいて、ご自由におとりくださいという方法が一番合理的かなとは考えておりました。一つはそれです。</p> <p>それから、後藤委員のおっしゃられました、小規模特認校というのは誰でも自由に行けて、それとは別の制度として事情があった場合にはこういう事情を考慮して指定校変更というのがあるんだよということを、一般の市民の方は知らないのではないかと。そこにおける誤解とか、行政不信とかが出てきたらおかしいよねというご意見だと思いますので、そこについてはきちんと説明するなどの、パンフレットに書くなり、きちんとした制度徹底、周知は必要かと思います。</p> <p>以上です。</p>

芦田委員	<p>これだけ配っておいて、定員が3名というのはどうかなと。</p>
教育長	<p>そうすると、その他の学年の募集は行わないわけではなくて、若干名くらいにしておきますか。</p> <p>2年と4年と5年は募集しないから、パンフレットあげないのもいかなものかと思うんですよ。兄弟が、こっちのお兄ちゃんはおもらってきたのに、下はおもらっていないと。あんたは行けるけれども、あんたは行けないんだよっていうのも、これ、もし保護者として、兄弟2人いて、これもらってきたときに、兄弟がいて、あんたは行けると、あんたは行けないんだよっていう、このスタンスも何か、保護者としてはどうなのかなって思います。（「兄弟がいた場合に、学年が違っていたらっていうことですよね」の声あり）</p> <p>ゆとり残しますか。若干名かなにかにして。これ、皆さんで、教育委員会で決めることなので、皆さんのご意見をください。</p>
芦田委員	<p>それで募集していて、定員が3名っていう、そこが満たされることはないの。</p>
次長兼教育企画課長	<p>令和元年度の例なんですけど、30年度から元年度において、最初に募集した人間もそうですし、途中で入った、出入りも含めてなんですけれども、先ほど言ったように1年生は18名いらっしゃいました。2年生は増減ゼロでした。3年生は、逆にマイナス3という結果になっていますので、もしかしたら何かの事情で引っ越されたのかもしれませんが。4年生がプラス1、5年生がプラス1、6年生がプラス3、中学生はプラマイゼロという状況でしたので、基本的には、1年生が年度当初はほとんどの方がいらっしゃって、本当に数名の方、年度当初はいらっしゃるというのが現実、ほかの学年は現実の子供たちの動きです。例えば、1年生が入ることを機に、じゃあお兄ちゃんもとかという場合が想定されるのかなと思います。今の数字は、年度の途中も含めてのものでありますから、先ほども言ったように、一番多い学年でも3名程度ですので、現実の今までの経過からすると、3名というのが一番多いですね。29年度でも一番多いのは2名ですし、30年度も2名ですので。ほかの学年では、二、三人くらいしか実際には1年間の間に特に増えているということはないというのが今までのデータからは出ております。</p>
芦田委員	<p>その他の学年の募集は、若干名にしておいたほうが、もう定員はいっぱいですよって断ることもできるっていうことですよ。行わないっていうのは、ちょっと、強引かなと思うんですが、いかがですか。</p>
五十嵐委員	<p>私も、やっぱり言い切らないほうがいいと思います。</p>



石井委員	要項を配布するに当たって、募集枠はないんだけども要項を配布するというのはなかなか不思議な話になってしまうので。周知の意味で要項を配布するのであれば、言葉とすればやっぱり若干名しかないのかなとは考えます。
後藤委員	何も書かないという選択肢は。（「なるほど」の声あり）そうすると必ず「どうなんですか」って来ますよね。言葉だと正確に状況を伝えることができ、また話を聞くこともできて、やっぱりケース・バイ・ケースというにならざるを得ない。それが前例になって、次年度は定員に合わせるような形になっていくというか。若干名では、書くのもいいかなと思うんだけど、若干名とした以上、とらざるを得ないですよ、若干名はとるんですから。
教育長	若干名とっても困るかっていうと、困らないんでしょう。2年生あたりは。
芦田委員	そこは、教育委員会と校長先生なりで協議する余地はできると思うんですよ。
教育長	若干名でも入ると教室の関係で困っちゃうのはどこですか。満杯になっちゃうとか、あるんですか。（「7年生、38ですね」の声あり）
次長兼教育企画課長	計算上マイナスになるのは7年生だけなんですけど、この7年生のマイナス3なのに3名程度というのは、実は6人くらいが私立中学校を希望されているという事情がございまして、実際には3の空きがあるという意味なので、そういう意味では今教育長のご質問にありました1名、2名とったから困るかっていうのがあるんですかっていうことに対しては、もちろん途中から奥野に地区内に引っ越されてこれれば、必ず就学していただくので、そういう意味では困らないという回答になるかと思います。
後藤委員	であれば、若干名としていいのではないかと。
教育長	では、教育委員さんの総意として、門戸は閉じないということにしましたので、「その他の学年の募集は行わない」はなくすと。それから、3年生5名、7年生3名というのはやらないで、1年生以外は若干名という形ですか、皆さん。（「そうですね」の声あり）3年生5名、7年生3名なんてやらないで、1年生は20名程度で、その他の学年は若干名と。（「それが一番いい」の声）それで門戸は閉じないでおきましょう

<p>次長兼教育企画課長</p>	<p>というご意見でよろしいですか。（「はい」の声あり）</p> <p>では、事務局、その辺修正お願い致します。（「はい」の声あり）</p> <p>あわせて、先ほど芦田委員からございました定員を超えた場合には抽せんをさせていただくことがありますとかっていう文言も入れさせていただければと思いますがよろしいでしょうか。（「そうですね」の声あり）抽せんという方法しか、基本的にはないかと思うので。（「そうですね」の声あり）</p> <p>議案第15号について出席者全員の賛成を得る。</p>
<p>教育長</p>	<p>次に、報告第13号、令和元年度牛久市地域学校協働活動推進員の委嘱について、事務局の説明をお願いします。</p>
<p>生涯学習課</p>	<p>報告第13号、令和元年度牛久市地域学校協働活動推進員の委嘱についてご説明をいたします。</p> <p>別紙、平成31年度牛久地域学校協働活動推進員の名簿をごらんいただきたいと思います。裏面になります。</p> <p>23番の有井 葵様が新規推進員となりまして、27番の佐藤幸子様がひたち野うしく小学校の推進員となっております。下根中も佐藤様は兼任をいたします。</p> <p>今回、委嘱しました委員を含めると、神谷小学校は4名、下根中学校は3名となります。</p> <p>委員の任期につきましては、令和2年3月31日となります。</p> <p>説明は以上となります。</p>
<p>教育長</p>	<p>コーディネーターという人たちですね、学校コーディネーターね。</p>
<p>教育長</p>	<p>次に、報告第14号、牛久市立ひたち野うしく中学校制服・体操服について、事務局の説明をお願いします。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>報告第14号、牛久市立ひたち野うしく中学校制服・体操服について。</p> <p>こちらのカラー刷りのをごらんいただきながらお聞きください。</p> <p>この件につきましては、下根中学校のひたち野小学校エリアの1、2年生の生徒と、ひたち野うしく小学校では4年、5年、6年生の児童及びその保護者と2人で考えていただいてということで投票していただきました。</p>

その投票に基づきまして、9月17日に学校と保護者と地域を構成員としますひたち野うしく中学校の準備委員会で決定されましたので、この場でご報告させていただきます。

制服については、前にも途中経過でご報告させていただきましたが、この形の物になります。株式会社タキモトという会社の物で、これまでの市内全域の物とはまた別の会社になります。

こちら、ジャケットつきが3タイプありまして、男女で、一番右側の物については、女子のジャケットに下はパンタロンというか、女子がはいていいようなズボン、スラックスを合わせたものになります。LGBTの対応等も考えておりますが、どなたでも、女の子において冬場の寒さ対策等で選んで結構ですというご説明をさせていただきました。

夏場においては、ズボンもしくはスカートに対して上はワイシャツ、必ずしも半袖とは限りません。長袖の方もいるかと思えます。そういった組み合わせで考えております。

すみません、脇にポロシャツとかニットベストとかセーター、これが載っているんですが、これについては学校が始まってから校則の中で決めていただくということで、今現在はこの背景がある写真の範囲内の物しか決めておりません。ポロシャツについても、若干議論があったんですが、やはり学校側はかなりポロシャツの裾を出すとか、中に入れるとかの指導が今後も未来永劫続くものですから、やはりなるべくそのあたりはシンプルにしたいという意向があります。そういったこともありまして、一旦はこの背景のあるエリアの中の物だけ決めております。あとは学校が始まってからという形になります。

金額については、男女ほとんど変わらないんですが、ブレザーとスラックスとネクタイ、もしくはブレザー、スカトリボンという組み合わせで3万5,000円ちょっとになると。それに必ず必要なのが、推奨品の長袖ワイシャツ、例えばAを組み合わせると、消費税、これ税抜きですので1.1倍すると、大体4万1,500円になります。概ね、4万2,000円くらいの金額になりますので、前の制服とさほど変らない、若干安いかなというような感じになっています。

以上が制服になります。

次に、めくっていただいて、カラー刷りのものです。こちら、ひたち野うしく中学校の体操服になります。

こちら、何種類か業者に競争させまして、サンプルを提示して、先ほど言った対象者に投票していただいた結果に基づいて準備委員会で決定したものでございます。

若干、細部の名入れ等については、準備委員会のほうである程度調整しました。デサントの物で選びました。

これについても、学校から出たのは、ジッパーの部分、これがフルジッパーだと全開にされて指導が難しいとか、そういうことでハーフジップにこだわりました。

あと、名入れについては、背中と、半そでの部分の前の部分に「Hitachino ushiku」ということでローマ字で入るという形になります。

半袖の部分については、女の子の透け防止、下着が透けるのを防止するというこ

	<p>ろを考えて、あえて紺を選びました。</p> <p>こちらは、その次にありますが、1万2,500円で、若干名入れ料がかかりますので、下にあります300円、450円足してみても大体1.1倍すると、1万4,000円半ばくらいになりまして、おおむね1万5,000円程度という形になっております。</p> <p>若干、これ、高目にはなっているんですが、値段も提示した中で投票いただいておりますので、納得いただいております。</p> <p>以上報告を終わります。</p>
教育長	<p>報告第15号、牛久市公園条例施行規則の一部を改正する規則について、事務局よりお願いします。</p>
スポーツ推進課	<p>報告第15号、牛久市公園条例施行規則の一部を改正する規則について。</p> <p>牛久市公園条例施行規則(平成25年規則第9号)の一部を改正することについて、別紙とおし報告いたします。</p> <p>1枚めくっていただきまして、様式第13号の改正でございます。裏面でございますが、プール入場券の料金の改定と、様式の変更でございます。</p> <p>次に、様式第14号の改正でございます。裏面をごらんください。体育館トレーニング室の利用券と利用回数券の様式の変更と料金の値上げでございます。</p> <p>以上、ご報告いたします。</p>
教育長	<p>では次に、報告第16号、牛久運動公園野球場広告掲載に関する告示の一部を改正する告示について、お願いします。</p>
スポーツ推進課	<p>報告第16号、牛久運動公園野球場広告掲載に関する告示の一部を改正する告示について。</p> <p>内容といたしましては、野球場の外野フェンスの広告でございます。こちらの利用料を2%引き上げるということで、5,400円を5,500円に、3,240円を3,300円に引き上げます。</p> <p>この料金の違いは、外野部分が5,000円プラス消費税の額、内野側に入ったところが2こずつございまして、合計4つございまして、こちらが3,000円になっておりまして、3,300円に引き上げる内容でございます。</p> <p>以上のとおり、10月1日から改正したいと思っておりますので、ご報告申し上げます。</p> <p>以上です。</p>

教育長	<p>では、報告１７号、牛久市立幼稚園授業料及び入園料徴収条例を廃止する条例について、お願いします。</p>
学校教育課	<p>報告１７号、牛久市立幼稚園授業料及び入園料徴収条例を廃止する条例についてでございます。</p> <p>こちらにつきましても、１０月１日からの幼児教育の無償化に伴いまして、１０月１日付で廃止するもので、こちら条例でありますので、既に８月１日の臨時議会において可決していただきまして、８月６日公布、１０月１日施行となるものでございます。なお、こちらの部分と、次の１８号の給食費の部分につきましては、第一及び第二幼稚園において９月１２日と１８日に保護者を集めまして説明会を開きました。</p> <p>以上です。</p>
教育長	<p>説明会の折には特に質問はなかったですか、保護者からは。</p>
学校教育課	<p>特にはなかったです。</p>
教育長	<p>では、次、報告第１８号、牛久市学校給食費条例施行規則の一部を改正する規則について、お願いします。</p>
学校教育課	<p>報告第１８号、牛久市学校給食費条例施行規則の一部を改正する規則についてでございます。</p> <p>同じく、こちらも幼児教育の無償化に伴いまして、一部の該当する世帯において、給食費のうち副食費の部分が免除となり、主食費、御飯、パン等の主食費の部分のみの徴収となることになりまして、それに伴う規則改正でございます。</p> <p>こちらについては、市長部局の規則であったために、既に決裁が行われ、９月１０日に公布となっております。</p> <p>内容としましては、対象となる世帯は、年収で３６０万円未満の世帯及びお子さんの部分で小学３年生以下のお子さんの数を数えて第３子以降になるお子さんが園児にいた場合はそのお子さんについて、それについては副食費を除いて主食費の部分だけを取るという形になっていまして、主食費の部分が幾らくらいかということで試算しましたら、結果５００円ということで考えております。給食費トータルでは３，４６０円なんです、そのうちの５００円だけを該当する世帯は取るという形になります。</p> <p>以上です。</p>

教育長	<p>次に、予定価格１３０万円以上の工事計画及び予定価格１００万円以上の教育財産の取得について、各課よりお願いします。</p>
生涯学習課長	<p>件名が、令和元年度三日月橋生涯学習センタートイレ改修工事となります。</p> <p>内容としましては、和式の大便器を洋式大便器温水洗浄便座への変更という工事の内容となっております。</p> <p>１階が７カ所、２階が３カ所。それに伴いまして、給排水管の改修、電気、附帯工事一式となります。</p> <p>設計金額ですが、８００万８，０００円ということで、入札を通しております。</p> <p>入札日なんですが、１０月９日に５社において入札を予定しております。</p> <p>これをもちまして、中央生涯学習センター、奥野生涯学習センターが終わっておりますので、３カ所目の三日月が終われば各館のトイレの改修は終わるということになります。</p> <p>以上です。（「全部洋式になるということね」の声あり）</p>
学校教育課長	<p>今回は１０件上げさせていただいて、ちょっと前のやつで計上漏れのものもありまして、今回上げさせていただいております。</p> <p>まず、１件目については、令和元年度ひたち野うしく中学校家具備品の購入になります。</p> <p>こちらについては、８月２８日に入札をやりまして、４，４６６万円、市内のエイシンオフィスが落札しておりますが、こちら２，０００万円以上ということで、議会案件になっております。１０月の議会に上程いたしまして、議決された後に本契約となって、納品の手続に移るというものでございます。</p> <p>主に、机や椅子、棚等の家具備品関係になります。</p> <p>次、２番目、こちらについては、同じくひたち野うしく中学校関係で、音楽備品の部分の入札になります。２，３６２万８，０００円で、こちら石岡のほうの業者でカミヤ楽器というところになります。８月２８日に入札を行っております。</p> <p>こちら、２，０００万円以上の案件ということで、１０月議会の議案として上程させていただきまして、議決を受けた後に本契約という形に移りまして、納品していただくという形になっております。</p> <p>３番からが、給食備品の関係になっております。給食備品は、何回かに分けて行っております。</p> <p>まず、年度当初にすぐ買わなきゃいけない物ということで、その１という形で１，２３１万２，０００円です。契約が、これは予定価格でして、契約額として１，１３４万円になっております。こちら、すみません、５月１５日に契約が済んでおります。</p> <p>株式会社フタバというところになります。</p> <p>次に、その２ということで、こちらは６月２６日に入札を行っているんですが、予定額で１，６９５万６，０００円。契約が済んでおりまして、１，５８７万６，０００円で、ツカマツ産業というところがとっております。</p> <p>こちら、夏休みの期間を使って、給食室がストップしているときに入れかえを行う</p>

<p>教育長</p>	<p>ような物ということで、この時期に購入しております。</p> <p>5番が、同じく給食備品でその3ということで、予定価格で280万1,520円、契約額にすると273万1,320円ということで、8月28日に契約をしております。</p> <p>こちらは、夏休みに給食室の点検を行うんですが、その結果どうしてもちょっと買わなきゃいけない物ということで洗い出された物です。当初の見込みの段階で入ってこなかった物ということで、例年購入しております。</p> <p>次に6番、こちらは、牛久小学校のスチームコンベクションオーブンの購入になります。オーブン1個だけなんですが、437万9,400円、契約額が437万4,000円ということで、8月29日に、これは、スチームコンベクションオーブンが急遽壊れたのがわかりまして、緊急で対応したものでございます。</p> <p>次、7番、中根小学校の児童用の机椅子の購入になります。</p> <p>こちら、すみません、4月24日に契約が終わっておりまして、契約金額で111万7,800円という形になっております。</p> <p>8番、小中学校の理科・算数の教材の購入になっております。</p> <p>こちらについては、理科振興に基づく補助金等も入っている契約になりまして、258万6,600円ということで、契約のほうは7月31日に済ましております。</p> <p>次に9番、こちらは音楽備品になります。</p> <p>先ほどの、ひたち野中だけに限った音楽備品で、これは市内全体の買い足しでございます。劣化している分であったり、不足する部分を購入しております。</p> <p>こちらの契約は、8月21日に終わっておりまして、156万4,920円になっております。</p> <p>10番につきましては、小中学校全体でのカーテンの購入になります。</p> <p>8月28日に契約を行っておりまして、127万3,104円になります。</p> <p>以上になります。</p> <p>以上で本日の議事は終了いたしました。</p> <p>これにて9月定例議会は終了いたします。</p> <p>次回の定例会は10月21日月曜日、市役所分庁舎第1会議室、午後1時30分の開催となります。よろしくお願いします。</p>
------------	---